

藻場と保全の取り組み (No.③)

藻場の名称	関西国際空港島藻場		
海域(府県)名*1	大阪湾(大阪府)	エリア名*1	
藻場の面積	53ha 出典:【自主調査(2016年3月)の結果より】		
藻場のタイプ	アマモ場 <input type="checkbox"/> ガラモ場 <input type="checkbox"/> アラメ・カジメ場 <input type="checkbox"/> ワカメ場 <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/>		
藻場の特徴	大阪湾南東部、泉州沖約5kmの場所に造成された人工島の周囲の護岸に形成されている藻場。空港島造成時、護岸の大部分に「緩傾斜石積護岸」を採用し人工の浅場を設け、藻場づくりの取り組みを行った。現在では海藻が繁茂し、様々な魚介類の生息場となっており、約200種類の生き物が確認されている。		
保全の取り組み名称	藻場の保全		
実施団体名	関西エアポート株式会社		
連絡先住所	〒549-8501 大阪府泉佐野市泉州空港北1番地		
代表者名	技術部 スマート愛ランドグループ	Email	—
団体会員数	— 名	HP	http://www.kansai-airports.co.jp/efforts/environment/kix/smart-island/report.html
(活動の概要)	1989年の1期空港島の護岸完成時から、良好な藻場の育成と維持・拡大を目指し、モニタリングをはじめとする各種調査・実験が行われてきた。2期空港島の造成時には、1期空港島での実績や知見を踏まえて海藻が生育しやすい環境をつくり、拡大させてきた。現在においてもモニタリングを継続し、豊かな藻場環境の創造に向けて取り組んでいる。		
(主な活動内容)	<input type="checkbox"/> 種の供給・再生 <input type="checkbox"/> 調査研究 <input type="checkbox"/> 磯清掃 <input type="checkbox"/> 食害動物駆除 <input type="checkbox"/> 研修会・学習会 <input type="checkbox"/> 他との協同連携 その他()		
(最近の活動実績)	<p>・ 定期的なモニタリング調査の実施。</p> <p>図1 空港島の海藻着生総面積の推移</p> <p>写真1 ガラモ場集まるメバルの幼稚魚</p> <p>写真2 シダモクなど</p> <p>写真3 カジメ</p> <p>・ カジメ母藻の移植によるカジメ場拡大実験の実施。</p>		

近年、海中林として魚介類のすみかとなるカジメの減少傾向がみられたことをうけ、母藻移植によるカジメ場拡大実験を実施している。移植にあたっては、カジメ母藻の活性を維持し、継続的な種苗の供給ができるよう、カジメが付着した石材ごと移設する手法を用いている。2017年10月のモニタリング調査において、移植した母藻周辺に幼体を確認した。

写真4 母藻採取

写真5 石材に付着したカジメの母藻

写真6 母藻移設

*1:「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省: H28年~30年) 参照

関連する生物種等	は希少種
<ul style="list-style-type: none"> ○野鳥: — ○藻場の生き物: メバル、カサゴ、キジハタ、ウニ、サザエ、アワビ 等 ○海藻(海草): カジメ、ワカメ、シダモク、タマハハキモク、ヨレモクモドキ 等 ○植物: — 	
希少種の特徴等	
希少種は存在しない	

藻場と保全の取り組み (No. ④)

藻場の名称	阪南市鳥取地先 (波有手アマモ場)		
海域 (府県) 名*1	大阪湾 (大阪府)	エリア名*1	
藻場の面積	0.9ha 出典:【「南泉州地域の藻場を活用した環境・人・文化の調和」活動報告書 (平成 29 年度大阪府環境保全活動補助金事業)】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他 ()		
藻場の特徴	西鳥取漁港の東の離岸堤岸側に位置し、干潮時の水深が 1m を切る流れが比較的速い砂質土の海浜。多年生のアマモが帯状に分布している。西鳥取漁港を挟んだ西側にも 0.2ha のアマモ群落がある。		
保全の取り組み名称	アマモ場再生・保全のための移植・啓発活動		
実施団体名	NPO 法人環境教育技術振興会/NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター (代表窓口) / 阪南市立西鳥取小学校		
連絡先住所	〒556-0021 大阪市浪速区幸町 3-1-10 日本ミクニヤ(株)内 (NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター)		
代表者名	中原紘之	Email	mari-co@osakawan.or.jp
団体会員数	一名	HP	http://osakawan.or.jp/
(活動の概要) 南泉州地域の自然環境や水産物、文化などの資源を一般市民に広く知ってもらい、かつての身近な海“大阪湾”を再生するために、大阪湾における体験型環境教育・啓発活動を実施。			
(主な活動内容) 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会 学習会 他との協同連携 その他 ()			
(最近の活動実績)			
1. アマモ開花状況調査およびアマモ場面積調査 平成 30 年 4 月 18 日～20 日および 5 月 1 日、5 月 17 日に阪南市全域でのアマモ開花状況調査およびアマモ場面積調査を行った。調査は干潮時の目視およびドローンによる空撮で行った。			
			
2. アマモ苗移植 平成 30 年 5 月 15 日～17 日に、阪南市にある西鳥取漁港周辺および下荘漁港周辺の 3 ヶ所で、阪南市立西鳥取小学校、阪南市立舞小学校、阪南市立下荘小学校の授業の一環として、前年度校内で生育させていたアマモ苗の移植を行った。 なお、アマモ場再生活動は前年度より関西大学北陽高等学校と連携して実施しており、小学生への指導や授業の一部を担当している。			




3. アマモ花枝採取
平成 30 年 6 月 2 日に、セブン-イレブン記念財団の環境保全活動である「セブンの森づくりプロジェクト」の一環として、阪南市鳥取のアマモ場前面海浜で海岸清掃を行った。なお、花枝の成長が例年より遅く、未成熟であったため、花枝採取は 6 月 15 日に実施した。
平成 30 年 6 月 14 日に阪南市立西鳥取小学校の授業の一環として、アマモ花枝採取を行った。




4. 今後の予定
①種子選別 (9 月)
②全国アマモサミット 2018in 阪南 (11 月 2 日～4 日)
③アマモ苗床づくり・播種 (11 月～12 月)

*1:「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省: H28 年～30 年) 参照

関連する生物種等	は希少種
○野鳥: ○藻場の生き物: イシガレイ (幼魚)、メバル (幼魚)、ホウボウ (幼魚)、ヒメイカ、ヨウジウオ、タツノオトシゴ、ミドリアマモウミウシ ○海藻 (海草): アマモ、オゴノリ、ミル、タオヤギソウ ○植物:	
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	

藻場と保全の取り組み (No. ⑤)

藻場の名称	男里川河口等		
海域(府県)名*1	大阪湾(大阪府)	エリア名*1	泉南市・阪南市・岬町海域
藻場の面積	— ha 出典:【 () 】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他()		
藻場の特徴	アマモ場は、かつて広域的に分布していたが、現状調査により量的には減少したが生育を確認した。また、近年、再生活動による分布拡大が確認された。		
保全の取り組み名称	アマモ場の現状調査・再生活動(種子採集、播種、育成、植付など)		
実施団体名	男里川干潟を守る会(平成7年4月設立)		
連絡先住所	〒590-0521 大阪府泉南市樽井2-5-2		
代表者名	田中 正視	Email	masami-t@nike.eonet.ne.jp
団体会員数	20名	HP	なし
(活動の概要)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 定例清掃・観察会: 毎月1回(第4日曜) ・ 環境学習の実施: 地元(泉南市・阪南市など)の幼稚園・保育所・小学校・中学校など ・ 調査活動など: 「アマモ場再生」環境学習(講義・実習、種子採集・播種・育成など現地活動) <p>「大阪湾見守りネット」(「ほっといたらあかんやん!大阪湾フォーラム」)に、設立以来参加・発表</p> <p>「大阪湾生き物一斉調査」に、平成20年第1回から参加(樫井川河口・男里川河口干潟)</p> <p>「私の水辺大発表会」泉南こども交流会に平成18年から参加、企画運営委員</p> <p>「泉南市ABCまつり」「魚庭(なにわ)の海づくり大会」などでのパネル展示発表など</p>			
(主な活動内容)			
<input type="checkbox"/> 種の供給・再生 <input type="checkbox"/> 調査研究 <input type="checkbox"/> 磯清掃 <input type="checkbox"/> 食害動物駆除 <input type="checkbox"/> 研修会・学習会 <input type="checkbox"/> 他との協同連携 その他()			
(最近の活動実績)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成29年5月27日 <p>(活動内容)</p> <p>第10回大阪湾生き物一斉調査(泉南市岡田浦)</p> <p>アマモ場現状調査・生き物調査など</p>			
			

*1: 「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省: H28年~30年) 参照

関連する生物種等	は希少種
<ul style="list-style-type: none"> ○野鳥: — ○藻場の生き物: — ○海藻(海草): アマモ、ワカメ、アオサ ○植物: <input type="checkbox"/>ハマヒルガオ 	
希少種の特徴等	
	

藻場と保全の取り組み (No. ⑥)

藻場の名称	尼崎西宮芦屋港周辺		
海域(府県)名*1	大阪湾(兵庫県)	エリア名*1	
藻場の面積	— ha 出典:【 () 】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 <u>ワカメ場</u> その他()		
藻場の特徴	尼崎西宮芦屋港内の直立護岸を利用したロープ式の人工藻場		
保全の取り組み名称	尼崎の海でワカメを育てよう		
実施団体名	尼海の会(協力:大阪湾広域臨海環境整備センター)		
連絡先住所	〒641-0035 和歌山県和歌山市関戸2-3-2		
代表者名	平井 研	Email	tidalflat01@mail.goo.ne.jp
団体会員数	40名	HP	http://hito-sizen-machidukuri.jp/
(活動の概要)			
本活動では、尼崎西宮芦屋港内の直立護岸において、水質浄化や生物生息場の創出などの環境修復を目的として、ワカメの育成に関する調査・研究を実施している。ワカメは、種糸をつけたロープを12月頃から海中に設置して育成している。なお、本活動では、「ジュンカン」をテーマとした環境教育も同時に実施しており、その内容は、育ったワカメを堆肥化→堆肥を利用して菜の花を育成→菜の花から菜種、菜種油を回収→油を使って天ぷら→体内を通過して海の恵みが海に還る、といったものである。この一連の「ジュンカン」を徳島大学や地元の中学生や市民、NPOや企業と協働し、実施している。			
(主な活動内容)			
種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他()			
(最近の活動実績)			
<ul style="list-style-type: none"> ・2010年12月25日 第1回 ワカメの種糸設置以降、毎年実施 <2016年度> ・2016年4月9日 第43回 菜の花の観察 ・2016年4月30日 第44回 菜の花の観察 ・2016年5月29日 第45回 菜の花の刈取り ・2016年6月19日 第46回 菜種の収穫 ・2016年7月30日 第47回 直立護岸に付着する生物の剥ぎ取り、剥ぎ取った生物の堆肥化 ・2016年9月3日 第48回 ヒマワリ畑作り ・2016年11月6日 第49回 菜の花畑作り ・2016年12月25日 第50回 ワカメの種糸設置 ・2017年1月22日 第51回 ワカメの生長観察、菜の花観察 ・2017年2月25日 第52回 ワカメの生長観察、菜の花観察 ・2017年3月26日 第53回 フォーラム開催 <p>2018年度も活動継続中</p>			

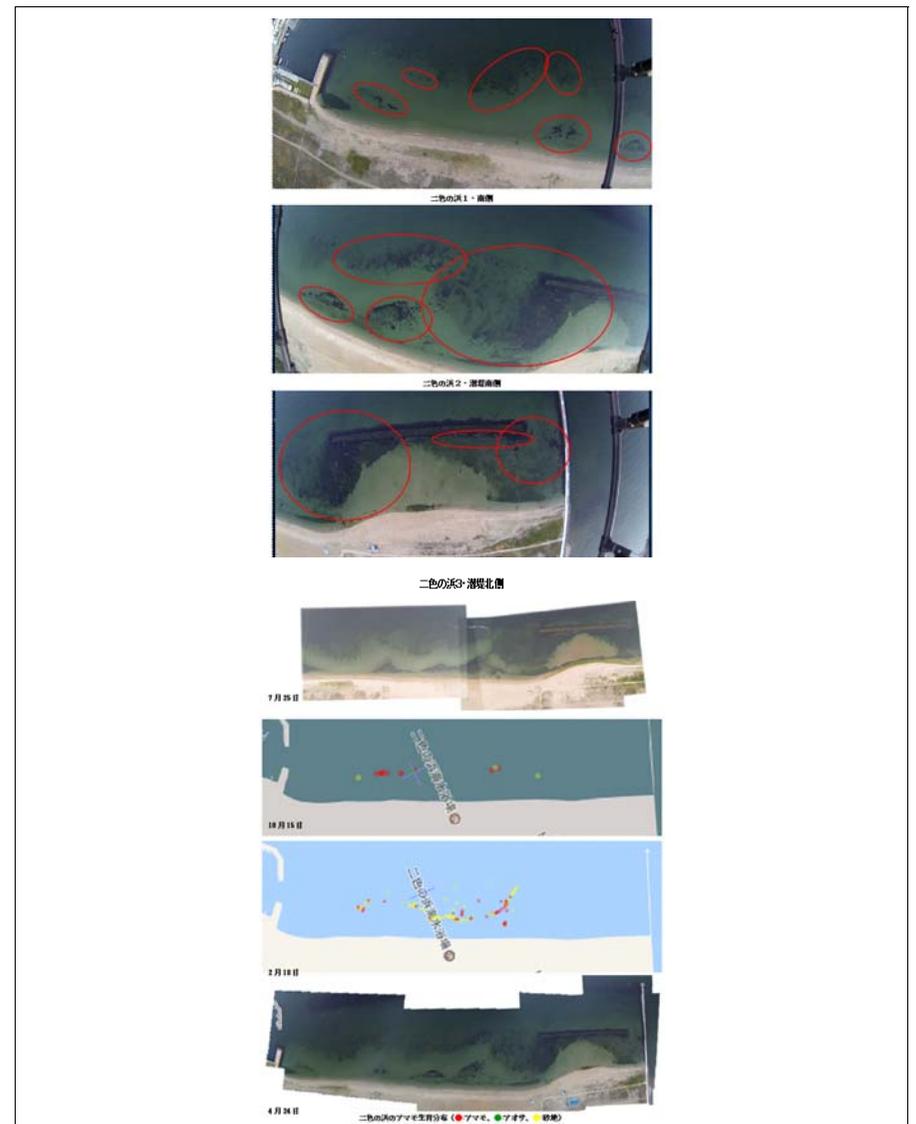


関連する生物種等	は希少種
<ul style="list-style-type: none"> ○野鳥: ○藻場の生き物: ○海藻(海草):ワカメ ○植物: 	
希少種の特徴等	
希少種は存在しない	

*1:「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省:H28年~30年)参照

藻場と保全の取り組み (No. ⑦)

藻場の名称	りんくうタウン地先		
海域(府県)名*1	大阪湾(大阪府)	エリア名*1	
藻場の面積	面積不明 出典:【 () 】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラム場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他()		
藻場の特徴	りんくう5協が関空前沿岸部(樽井サザンビーチ～二色の浜公園)でのアマモ場再生事業を平成15年度より行い、樽井サザンビーチ、岡田浦、二色の浜ではアマモが定着し、藻場面積が増大している。		
保全の取り組み名称	りんくうタウンアマモ場調査		
実施団体名	特定非営利活動法人アマモ種子バンク		
連絡先住所	〒663-8142 西宮市鳴尾浜 1-1-8		
代表者名	出口一郎	Email	amamojimukyoku@amamobank.sakura.ne.jp
団体会員数	69名	HP	http://www.amamobank.sakura.ne.jp
(活動の概要)			
りんくう沿岸部の樽井、岡田浦、二色の浜でドローンにより高度100mから海底面を空撮し、海底面の陰影からアマモの分布域を調査する。また、船上より水中ビデオを水中に降ろし、空撮で海底の陰影がある部分の海域で船を行き来し、GPSによる船の位置情報とビデオ映像の内挿された時刻を照合することで、海底の陰影がアマモかどうかを判定する。			
(主な活動内容)			
種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他()			
(最近の活動実績)			
<ul style="list-style-type: none"> 平成29年4月24日 (活動内容) ドローンによる海底の撮影 			
			
<ul style="list-style-type: none"> 平成28年10月15日 (活動内容) "釣るとこみるぞう君"によるアマモの映像 			
			
<ul style="list-style-type: none"> 調査結果 (活動内容) 二色の浜公園前のアマモ場について示す 			



*1:「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省: H28年～30年) 参照

関連する生物種等	<input type="checkbox"/> は希少種
○野鳥:	
○藻場の生き物:	
○海藻(海草): アマモ	
○植物:	
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	

藻場と保全の取り組み (No. ⑧)

藻場の名称	兵庫運河 (新川橋もと)		
海域 (府県) 名*1	大阪湾 (兵庫県)	エリア名*1	
藻場の面積	0.1ha 出展:【 () 】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他 ()		
藻場の特徴	当水域は、港湾区域の水路内にあり、高度成長期の水質汚染により魚介藻類が絶滅状態になり、近年水質の改善により回復状況にある。		
保全の取り組み名称	アマモ場の保全活動		
実施団体名	兵庫運河の自然を再生するプロジェクト		
連絡先住所	〒652-0872 神戸市兵庫区吉田町 3-7-29 兵庫漁協内		
代表者名	糸谷安一	Email	
団体会員数	54名	HP	
(活動の概要) アマモの株の移植			
(主な活動内容) 種の供給・再生 調査研究 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他 ()			
(現在の活動実績) ・28年 5月20日 (活動内容) 神戸市舞子漁港においてアマモの花穂を採取し、“根巻き”を行い、移植できる状態の株に加工した。 ・28年 6月 6日 (活動内容) 兵庫運河の新川橋もとにおいて、アマモの株の移植を行った。 ・29年 1月12日 (活動内容) 兵庫運河の新川橋もとにおいて、移植後のアマモの発芽状況を確認した。(発芽は確認できなかった) ・29年 5月10日 (活動内容) 4月19日に設移植したアマモの発芽チェックを行った。			

関連する生物種等	は希少種
<input type="checkbox"/> 野鳥： <input type="checkbox"/> 藻場の生き物： <input type="checkbox"/> 海藻 (海草)： <input type="checkbox"/> 植物：	
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	



アマモの発芽確認



アマモの花穂

*1:「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省: H28年~30年) 参照